

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 18 年 1 月 5 日 (2006.1.5)

【公表番号】特表 2004-536201 (P2004-536201A)

【公表日】平成 16 年 12 月 2 日 (2004.12.2)

【年通号数】公開・登録公報 2004-047

【出願番号】特願 2003-515588 (P2003-515588)

【国際特許分類】

**C 0 8 L 101/00 (2006.01)**

**C 0 8 K 5/3447 (2006.01)**

**C 0 9 B 57/00 (2006.01)**

【F I】

C 0 8 L 101/00

C 0 8 K 5/3447

C 0 9 B 57/00 Z

【手続補正書】

【提出日】平成 17 年 7 月 7 日 (2005.7.7)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

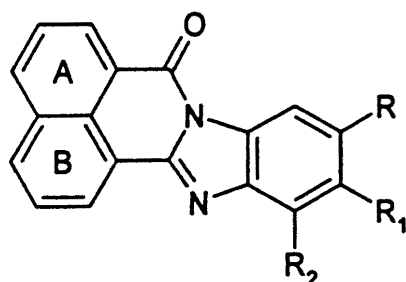
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

合成材料を練り込み着色する方法であって、式

【化 1】



(1)

(式中、

R と R<sub>1</sub> とがいっしょになってフェニル又はヘテロアリール基を形成し、R<sub>2</sub> が水素であるか、R<sub>1</sub> と R<sub>2</sub> とがいっしょになってフェニル又はヘテロアリール基を形成し、R が水素であり、

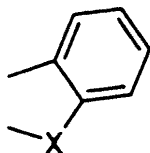
環 A 及び B は、互いに独立して、C<sub>1</sub> ~ C<sub>4</sub> アルキル、C<sub>1</sub> ~ C<sub>4</sub> アルコキシ、ハロゲン、-COOR<sub>3</sub>、-CONHR<sub>4</sub> 及び / 又は -SR<sub>5</sub> によって置換されていてもよく、R<sub>3</sub>、R<sub>4</sub> 及び R<sub>5</sub> は、互いに独立して、水素、C<sub>1</sub> ~ C<sub>4</sub> アルキル、C<sub>6</sub> ~ C<sub>12</sub> アリール又はヘテロアリールである)

の少なくとも一種の無金属有機顔料を使用することを含む方法。

【請求項 2】

R と R<sub>1</sub> によって又は R<sub>1</sub> と R<sub>2</sub> によって形成されるヘテロアリール基が、式

## 【化 2】



(2)

(式中、

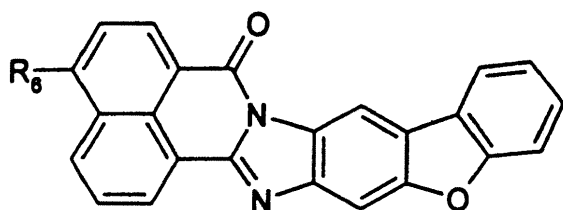
X は、 $-O-$ 、 $-S-$ 、 $-NR_6-$  であり、 $R_6$  は、水素、 $C_1 \sim C_{12}$  アルキル又は非置換であるか、ヒドロキシ、ハロゲン、 $C_1 \sim C_4$  アルキル及び / 又は  $C_1 \sim C_4$  アルコキシによって置換されているフェニルである)

の基である、請求項 1 記載の方法。

## 【請求項 3】

式

## 【化 3】



(3)

(式中、

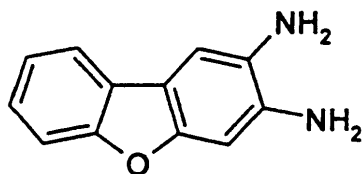
$R_6$  は、水素又は臭素である)

の、請求項 1 記載の顔料。

## 【請求項 4】

請求項 3 記載の式 (3) の顔料の調製方法であって、式

## 【化 4】



(50)

の化合物を、酢酸中、高温で、非置換又はプロモ置換ナフタレン - 1, 8 - ジカルボン酸無水物及び酢酸カリウムと反応させることを含む方法。

## 【請求項 5】

合成材料を練り込みに着色する方法であって、請求項 1 記載の式 (1) の少なくとも一種の顔料を当該材料の基材に配合することを含む方法。

## 【請求項 6】

合成材料の練り込みに着色における、請求項 1 記載の式 (1) の顔料の使用。

## 【請求項 7】

請求項 5 にしたがって請求項 1 記載の式 (1) の顔料で着色された合成材料。